



星陵祭〇と× 「ありえない」「リア充が」

(続き) オケ部のステージも問題なく成功させることができよかった(祝3位(^o^))。後夜祭のオーケストラ部の「情熱大陸」がかっこよすぎた。マジで先パイと1年の二人かっこいい。ありえない。すごく楽しめた!!!

×宣伝で足りなかった。受付をスムーズに出来ないときがあった。リア充がいっぱいた。

■朝青龍明徳

○2日間くらいだったけど、残って頑張って作業した。軽音のRAD超かっこ良かった!

×エマージェンシースタッフ(?)の時、座ってるだけで何も手伝えなかった。

星陵祭の〇と×を書いてもらったが、クラスに関連した〇の内容をまとめれば、

「みんなが何かしらの役割をもち、それを責任をもって果たしながら、全員でイイものを作りあげようとして頑張り集中したことが、楽しくかけがえのない思い出になった」

…といったところか。一方、×の方は、

「計画が充分でないところがあったり、一部の人に負担が偏ったりして、何ごとも遅れがちになってしまい、ドタバタと慌ただしく、準備が完璧とまではいかなかった」

…てな感じかな。

初めての経験であり、予定通りに行かないことや、チーフ会、部活などと両立させるのは大変だったに違いない(そのせいで勉強がおろそかになったりして…笑)。しかし、そ

ういう時、リーダーでなくてもアイデアを出したり、声をかけあったりできるようになってほしいものだ。3年生の劇が素晴らしいのは、もちろん経験を積んでいくからだが、2年間クラス替えがないために、上に書いたような声かけや助け合いが、自然にできるようになるからでもあるだろう。

こういう行事の際には、一部の人に負担が掛かりがちなのは仕方のない面もある。だからこそ、そういう時に周囲の人がどれだけバックアップしてやれるかということが大切だし、そこにクラスの力が現れるのである。

余談になるが、これは我々大人の世界でも同じで、何か仕事(プロジェクト)を始めれば、当然、負担のかかる人が出てくる。日比谷の先生方が素晴らしいのは、そういうチーム力が試される場面で、協力体制がサッとできるところである。

さて、どうして先輩があんなに星陵祭に熱狂するのか、分かったことだろう。一生懸命取り組んだ人ほど、大きな楽しさを味わったに違いない。そう、本当の感動は、本当の取り組みをした人だけに与えられるものなのである。勝手に休んだり早退するような人には一生味わえない感動である。君たちにとって星陵祭もあと2回。しかも来年はプレハブで実施ということになる。今年の経験がそのまま生かせない部分も出てくるだろう。しかし、だからこそ今年の経験を生かして新しい状況に立ち向かい、日比谷でしか味わえないあの感動を、再び味わってほしいものだ。